

令和元年度 第6回「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：「県産農林水産物の加工販売と農家民宿の推進～6次産業化による地域農林水産業の活性化～」
- 2 日時：令和元年12月25日（水）14：00～
- 3 場所：吉備高原リゾートホテル（吉備中央町吉川4860-6）
- 4 参加者：農家民宿経営者や県農林水産物の加工・販売事業者：8名
- 5 知事挨拶

それぞれの地域で、農業を違った視点で元気にしていこうと、すでに活躍されている皆さんにお越しいただいた。今取り組んでいることや、その取組の中での工夫などをお話しいただきたい。

6 発言

【自己紹介、取組状況】

- ・昭和60年くらいから25年ほど花の生産をし、その後は、地産地消の弁当づくりをした。4年ほど前から農家民宿をしている。自分の財産としていろいろな人との出会いを大切にしたいと思って過ごしている。
- ・田舎暮らしに憧れて、7年前に地域おこし協力隊になった。お土産物屋を任されるようになったが、協力隊の3年間で何かできないかと、近所の空き家を活用して農家民宿を開業した。現在は、農家民宿と土産物屋を運営している。
- ・平成20年から米粉に興味をもち、平成25年にパン工房、平成26年には販売スペースを作った。平成30年に国の6次産業化認定を受け、もち玄米のグラノーラを製造している。男性も食べやすいバータイプのグラノーラを商品化した。
- ・お茶加工品にはクッキーやスイーツが多いが、独自で新しく作ったのが海田園黒坂製茶の「茶ノベーゼ」。美作番茶という美作地方のものを生かして商品化した。一人暮らしや忙しい方でも手軽に摂取できることをPRしながらがんばっている。
- ・平成24年度からもち麦の生産・販売を、26人の会員で行っている。品種「キラリモチ」は、βグルカンが通常のもち麦の1.5倍含まれている。
- ・人口減少、少子高齢化が進み、耕作放棄地も増えているため、もち麦を活用した特産品で活性化しようとしている。人口が減って地域力が下がっていくのが不安だが、どうか地域を盛り上げたいと思っている。
- ・岡山県6次産業化グループ協議会の会長をしている。昭和62年に設置した星の郷青空市は、中四国では最初の直売所。後継者不足の中、まちおこしの的などから始め、直売所の商品は9割以上が美星町で生産された商品である。また、6次化商品「そばかりんと」を販売し、売れ筋商品となっている。都市部に近いところに直売所ができたが、がんばっている。
- ・もともと農家ではなく、デザインの仕事をしていた。3年前に法人化し、桃を生産しながら、加工品として冬でも楽しめる「水熟桃」を販売している。商品を作った経緯は、海外、特に中国にどうやって桃をおいしく届けられるか、3年ほど研究し、独自製法で、酸化させないように工夫している。他の果物でも応用可能で、常温で1年間、この状態

が保たれる。

- ・前職は和菓子メーカーに創業期から在籍し、総務から製造、海外勤務など、いろいろなことに関わってきた。その後、退職し、岡山県では6次産業化のプランナーとして企業を訪問し支援している。岡山県にはいいものがたくさんあり、世界でいうとフランスに近い。ブランド化できれば、のびていくと考えている。

【農家民宿や加工をしてうまくいった点、よかった点、どんな手応えがあったか等】

- ・農家民宿の利用者には、家に帰ってからすぐ食べられるものを一緒に作って帰りたいと言われることがある。今後は、宿泊だけではなく経営に生かせるよう、土産になる加工品を作り、販売したい。
- ・農家民宿を始めて、地域の方と連携して体験プログラムを行うようになった。今年から地域で農泊推進協議会も立ち上げ、徐々に、人を呼ぶことができはじめたと思う。しかし、お客さんが体験したいことと、地域として残したいこととの差があり、なるべく地域の人が残したい体験を残せるように調整している。
- ・無農薬で作った材料を使った米粉パンや加工品の製造を始めた。米粉パンは日持ちがしないので、加工品を増やしている。お客様の声を直に聞けるのが一番うれしい。
- ・岡山として独自性を出すため、桃やピオーネ、マスカットをブレンドした商品にしている。計画段階だが、でき上がった商品のほか、実際に畑や新芽、工場などを見てもらえるようにして、親近感をもってもらいたい。さらにお客様自身がブレンドしたオリジナルのお茶が作れるような工夫をしている。
- ・当研究会は、最初はもち麦を作るだけの任意団体だったが、ビールの販売を検討する中、法人化して酒類の販売免許を取得した。そこから会員の動きが一変し、経営者の立場で勉強するようになった。その後、もち麦を使ったレストランをしたいと計画し、6月に「かふえ麦」を開店。開店にあたり、県普及センターなどからご指導をいただいた。
- ・今は町内の農家さんが生産したものを、当方で加工・販売している。似通った商品が多くなり、販売に苦勞している。高齢化が進み、これから農家が少なくなり、また、異常気象が毎年起きると、1次産業がなくなる、6次産業化もできなくなると思う。どう農家を育てていくか、我々も考えるが、県も考えてほしい。
- ・加工品にすることで、海外で岡山の果物を季節に関係なく知ってもらえたのが大きい。現在、加工技術を確立させるために、県内の大学や企業と連携している。課題は日持ちが難しい生果をどうするか。生果での輸出が進んでいるが、加工品は輸出のリスクを回避しながら、岡山の果物をおいしく提供する一つの方策だと思っている。
- ・農泊の全国大会があった。地域での当たり前は都会の当たり前ではない。田舎では心理的にも癒されるという作用があると言われていた。外から見てすばらしい財産をどう生かしていくか。都会に出て、農業や加工が大事だと気付く若者が増えている。今回の参加者全員が集まったら地域商社になる。海外も目指すとよいが、競争が厳しいので、価値があり、独自性がないと成功しない。日本のクオリティーは高い。今回の参加者のモノづくりの力が集結すれば岡山県は強い県になるのではないかと。

【その他意見やアイデア等】

- ・ 未来塾やセミナーなど、異業種の方との交流が、さまざまなサポートを受けるきっかけになった。
- ・ 後継者がいない一方で、農業をしたい人もいる。県が、人と人とを結びつける場を提供してほしい。
- ・ 田畑は貸してもらえらるが、住居の確保で困っている。宇治町では、町内の支援団体が空き家の調査や移住者とのマッチング、町内会の説明等をしており、地元の方が行うことが信頼につながっている。
- ・ 難しいことも多いが、逆にチャンスにもなる。無農薬野菜は非常に価値があり、他県で作っている農家は海外に出している。よそとは違うものをひとひねりする。県等のサポート体制を活用して、自分が動いてチャレンジすると、解決策はあると思う。

【知事まとめ】

- ・ 6次化の良いところは、作る人が加工・販売することで、お客様と接する機会が増えるところ。売るのが簡単そうにみえて、実は一番難しい。利益がでるところまで到達するのは大変。お客様とのコンタクトを生かし、色々なことを経験した方に聞くとは大事。
 - ・ ダメなところを改善し、さらに課題を見つけては改善していく繰り返し的大事。アンテナショップ経由で、全国の流通にのった成功例は100を超えている。磨いていく努力を重ねてほしい。また、専門家にも意見を聞いてほしい。
- 今後も異業種との交流ができる機会を呼びかけていきたい。